

令和 8 年度 東京の農林水産業振興に向けた専門懇談会
農業部会（第 1 回）

次第

日 時 : 令和 8 年 7 月 27 日（月）
16 時 00 分～17 時 30 分
場 所 : 都庁第一本庁舎 25 階 一般会議室 115

1 開会

2 出席者紹介

3 部会長選任

4 議事

【議題】

- ①東京農業の持続可能性向上と活性化
- ②東京型アグリテックの推進
- ③東京農業の価値の最大化

（1）事務局説明

（2）意見交換

5 閉会

東京の農林水産業振興に向けた専門懇談会 農業部会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

所属等	氏 名
あらはたやさい学校（武蔵村山市）	あらはた 荒幡 よしまさ 善政
法政大学経営学部市場経営学科 教授	きむら 木村 じゅんこ 純子
東京農工大学 学長特任補佐 (Dejima Intelligence 株式会社 代表取締役)	はま だ 濱田 たかのり 隆徳
植物工場研究会 J P F A 理事長	はやし 林 え り 絵理
東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	や ぎ 八木 ひろのり 洋憲



令和 8 年度 東京の農林水産業振興 に向けた専門懇談会

農業部会

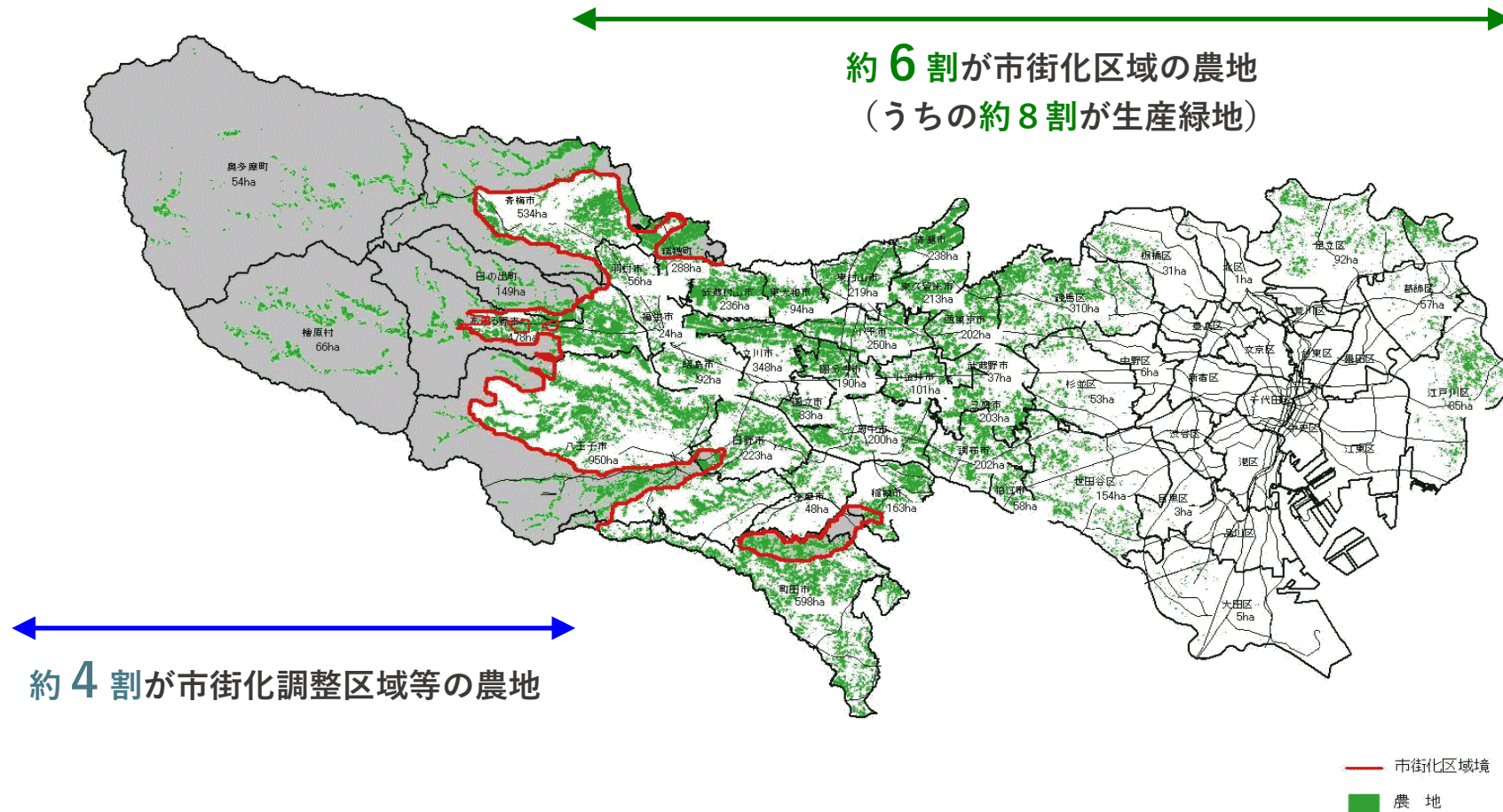
令和 8 年 7 月 27 日



東京農業の現状

① 東京の農地

- 東京には多摩から区部、島しょ地域まで約6,000haの農地が広がる
- そのうち約6割が市街化区域に、約4割が市街化調整区域に存在
- 市街化区域の農地の約8割が生産緑地に指定され、都市の貴重な緑として保全

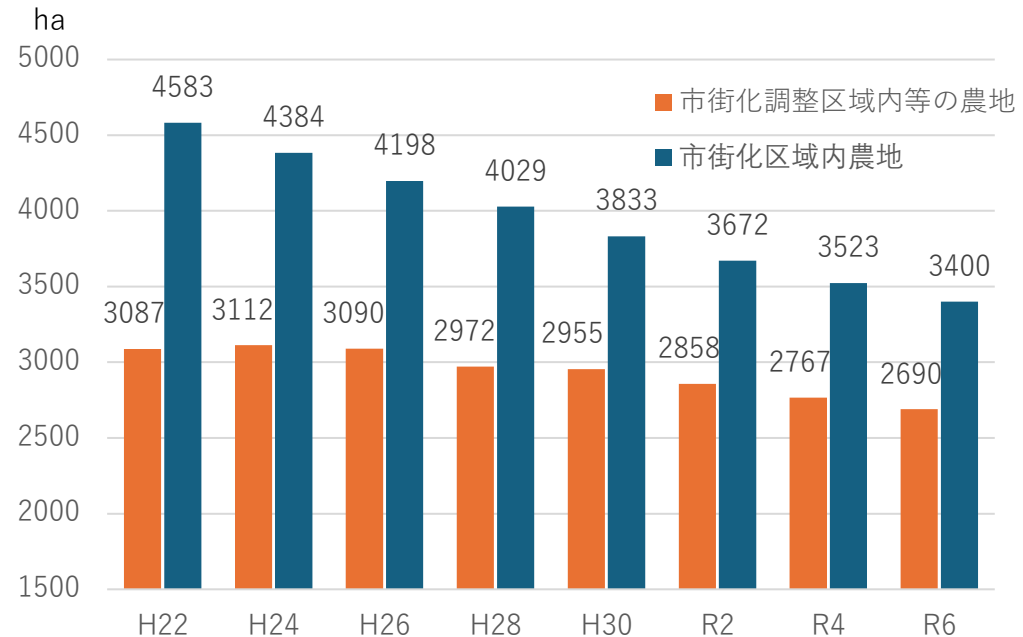


東京農業の現状

② 東京の農地

- 東京の農地は毎年、**約100ha減少**
- **市街化区域**は開発圧力が高く、**相続**を契機に**農地は小型化、分散化**

■ 農地面積の推移



出展：農林水産省「耕地及び作付面積統計」、東京都「東京の土地」

市街化区域の農地

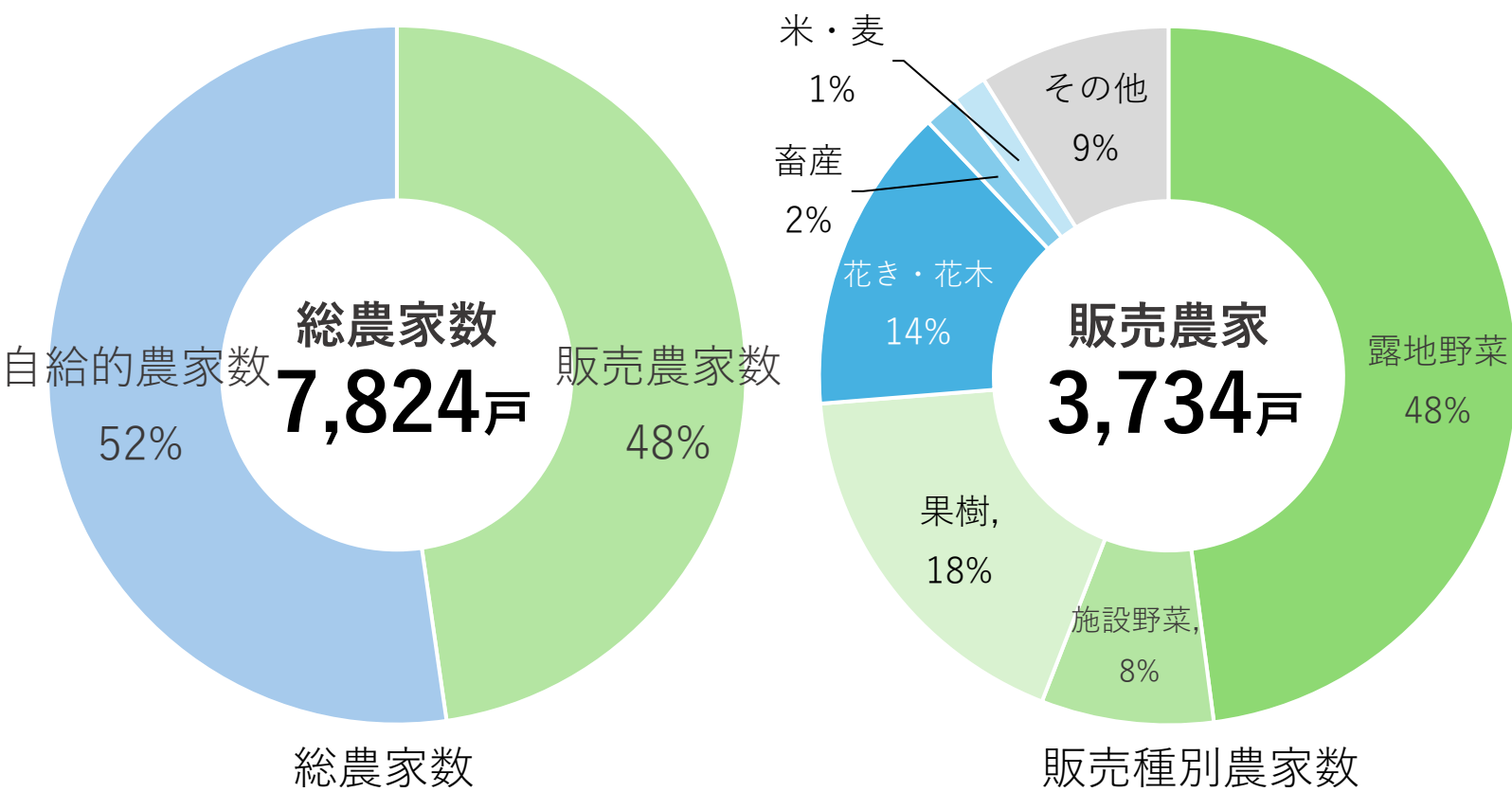


練馬区大泉学園地区

東京農業の現状

3 東京の農家数

- 東京の**総農家数**は**7,824戸**で、約半数の**3,734戸**が**販売農家**
- 約**6割**が**野菜類**を生産し、**作付面積**では**コマツナ**、**産出額**では**トマト**が最も多い



出典：農林水産省「農林業センサス2025」

作付面積順位（野菜・延べ・ha）		
1	コマツナ	375 ha
2	ホウレンソウ	255 ha
3	バレイショ	244 ha
	ダイコン	207 ha
	キャベツ	195 ha

農業産出額順位		
1	トマト	11%
2	コマツナ	7%
3	ナシ	5%
	ナス	4%
	ホウレンソウ	3%

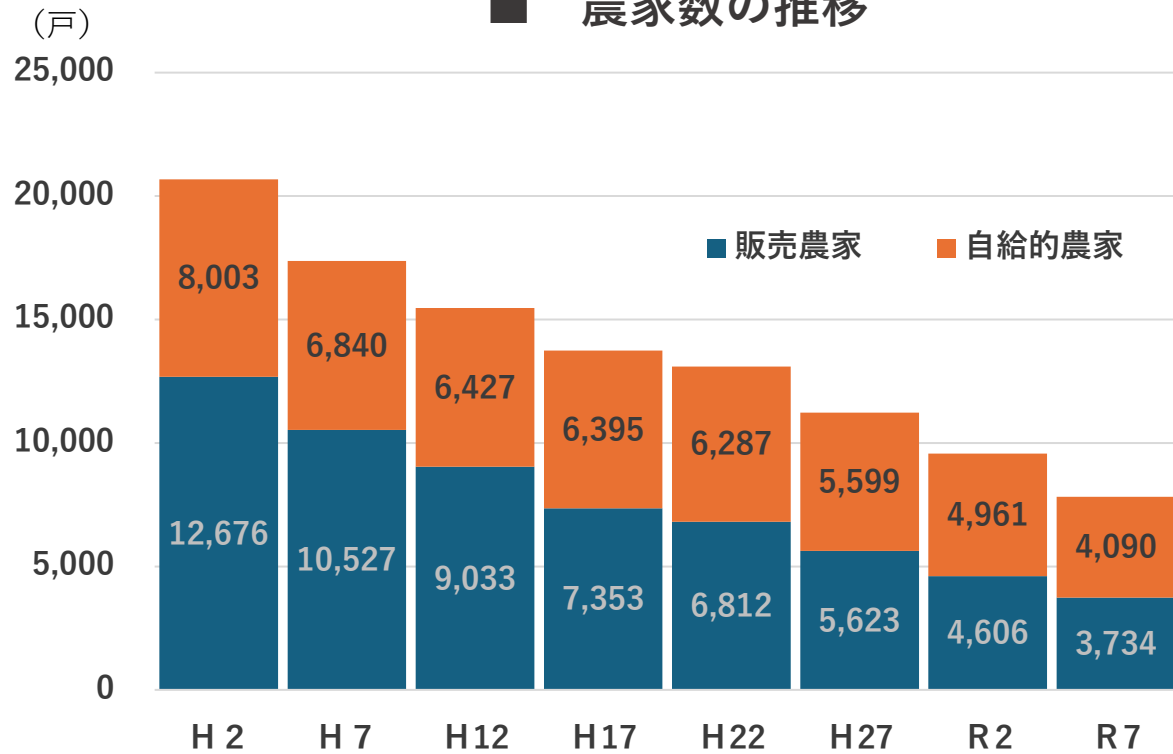
出典：「東京都農作物生産状況調査結果報告書（令和6年産）」

東京農業の現状

4 東京の農家数

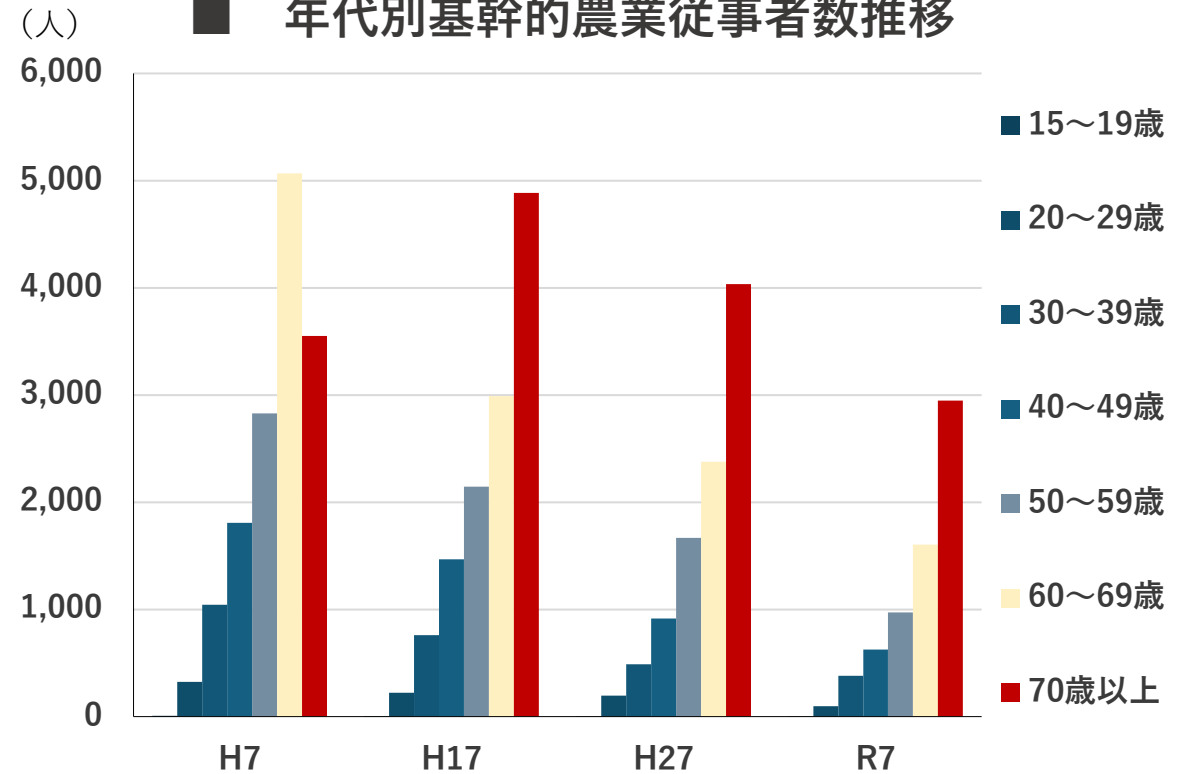
- 東京の農家数は右肩下がりが続けており、令和2年に1万戸を割り込む
- 年代別では70歳以上の割合が大きく、減少速度は急速に進む可能性

■ 農家数の推移



参考：農林業センサス

■ 年代別基幹的農業従事者数推移



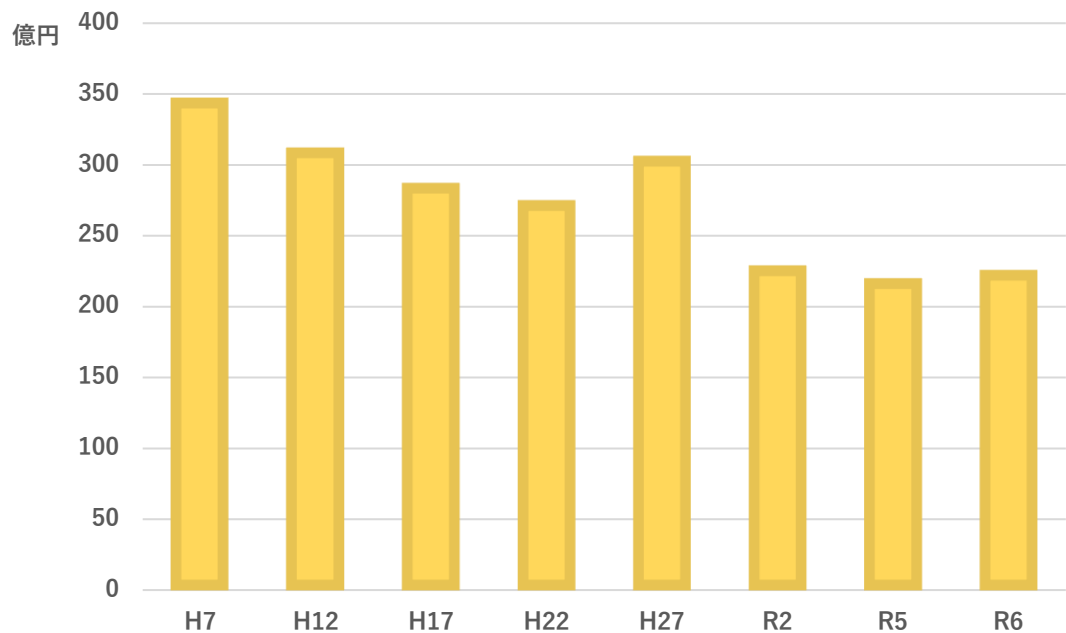
参考：農林業センサス

東京農業の現状

5 東京の農業産出額と出荷先

- 近年の東京の農業産出額は**200～250億円程度**で推移しているが、長期的には**緩やかな減少傾向**
- 東京の農産物は全国に比べ、**消費者への直接販売**の割合が高いことが特徴
- **東京都エコ農産物認証**などの環境に配慮した農業を推進しているが**認証件数は伸び悩んでいる**

■ 農業産出額の推移



出典：東京農林水産統計年報・関東農林水産統計年報 生産農業所得統計

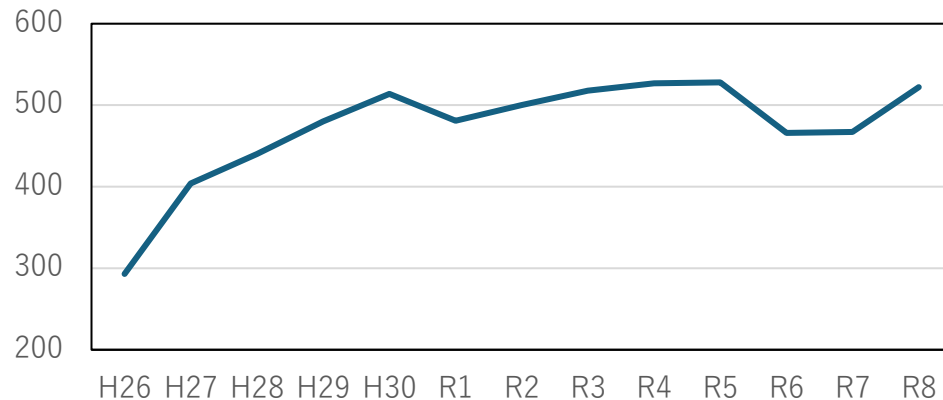


認証マーク



農産物直売所

■ エコ農産物の認証件数の推移



議論テーマ 東京都の農業振興の方向性

- ① 東京農業の持続可能性向上と活性化
- ② 東京型アグリテックの推進
- ③ 東京農業の価値の最大化

議論テーマ ① 東京農業の持続可能性向上と活性化

○ 民有地である農地をどう守っていくか

都内農地の構造と保全上の課題

市街化区域外の農地	市街化区域の農地
農用地区域 1,600 ha (原則、転用不可)	生産緑地 2,800 ha (税制上の優遇措置があるものの 相続等を機に失われるリスク)
その他の農地 900 ha (転用には許可が必要)	宅地化農地 650 ha (宅地転用がいつでも可能)

販売額別の経営耕地面積の割合



2020農林業センサス 経営耕地面積規模、農産物販売金額規模別経営体数より推計

東京の農地の約 7 割を販売額500万円以下の農家が管理

【東京都の主な農地保全の取り組み】

○ 未来に残す東京の農地プロジェクト

農地の多面的機能の強化や、都民が農業に触れ合う場を拡大する取組を支援して農地・農業への理解を醸成し、農地の保全につなげる

○ 生産緑地買取・活用支援事業

農的活用を目的として区市が生産緑地等を買取る際の経費を支援し、都市農地の保全につなげる

○ 農地長期貸借促進奨励事業

新規就農者や経営規模拡大志向農家等借り手への貸借を促進するため、長期間の賃借権等を設定した貸し手に奨励金を交付

○ 東京都農業法人育成支援事業

都内の農業法人の規模拡大や東京農業に新たに参入する法人を支援することで、農地の減少を食い止める

○ 企業等における農的活動に向けた農業ビジネス支援事業

企業等におけるCSRやビジネスの一環としての農的活動に対するニーズの高まりに対応するサービス提供をメインとした新たな農業ビジネスへの転換を支援し、農地保全と農業所得の向上につなげる

議論テーマ ① 東京農業の持続可能性向上と活性化

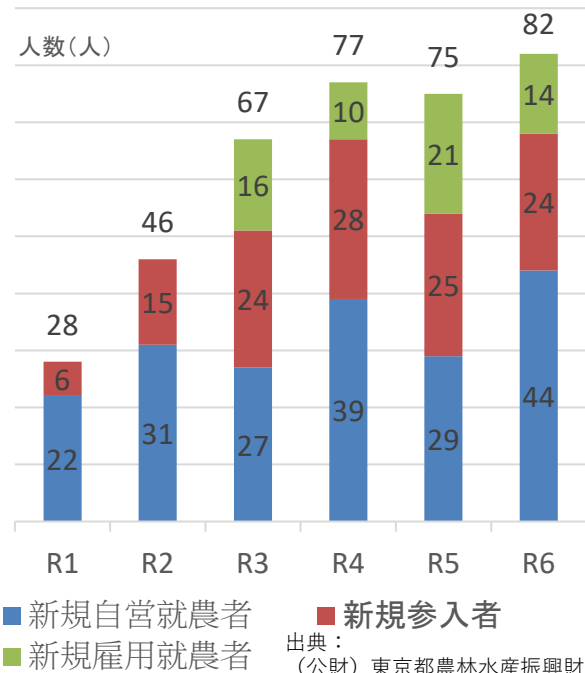
○ 減少・高齢化が進む担い手対策をどう図っていくか

5年以内の後継者の確保状況

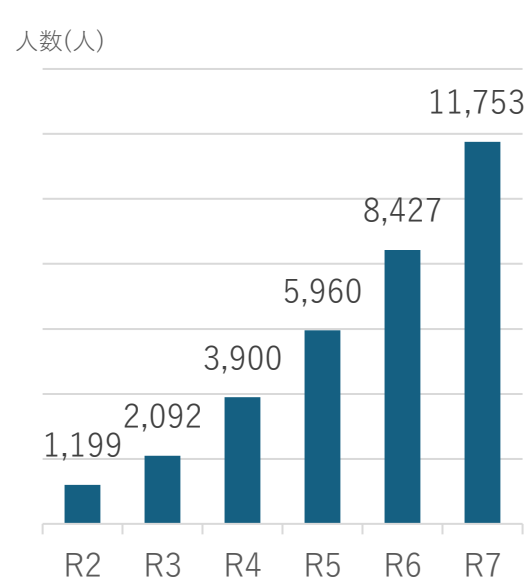


出典：2020年農林業センサス

新規就農者数の推移



援農ボランティア登録数※



(※) 都が実施する「東京広域援農ボランティア事業」におけるボランティア登録者累計数

【東京都の主な担い手確保・育成の取り組み】

○ 東京農業アカデミー事業

東京農業の担い手を確保・育成するため、都内への就農希望者及び都内の農業者の全てを対象として、**就農検討期から経営発展期に至るまでの各ステージに応じた研修等を実施**

○ 八王子研修農場事業

東京農業の担い手を確保するため、**農外からの新規就農希望者**に対し、**2年間の実践的な研修**を実施

○ 多様な担い手育成支援事業

副業的農業希望者や援農ボランティア希望者等の**多様な担い手**を育て、**農業への参画を促す**体制を整備し、担い手を確保・育成

○ 東京広域援農ボランティア事業

農作業を経験したい方に「**広域援農ボランティア**」として、都内全域で**農業者とマッチング**。作業に従事する農的体験を提供し、農業者の農作業を支援

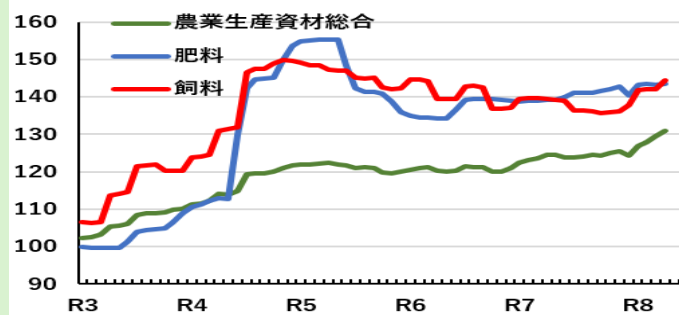
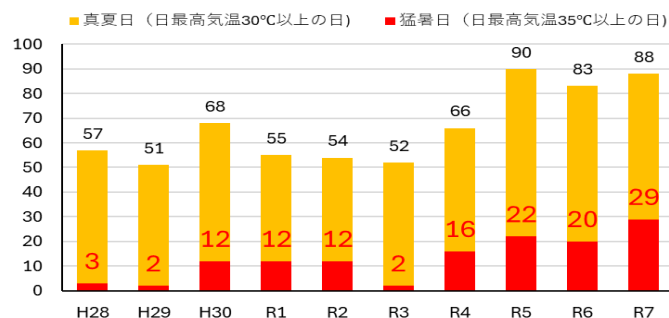
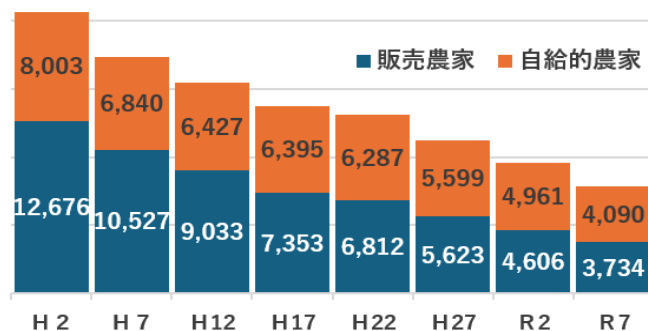
○ 農業スポットワーク活用促進事業

休日や空き時間に短時間だけ働きたいというニーズが高まりつつある一方で、都内の農業者は担い手不足や高齢化により労働力が不足している。**農業におけるスポットワークの活用を推進**

議論テーマ 2 東京型アグリテックの推進

○ アグリテックで東京農業の課題を解決できるか

東京農業が直面する課題



スマート農業の実装



○大規模農業が中心の技術開発

ドローン、自動運転、機械の大規模化など、スマート農業技術は全国向けの開発となり東京では利用しにくい。

○東京の集積を生かし切れていない

大学、研究機関、スタートアップ、資本、市場などの集積を生かし、東京発のアグリテックを創出できないか。

東京における植物工場



○安定供給が可能も品目、コストが課題

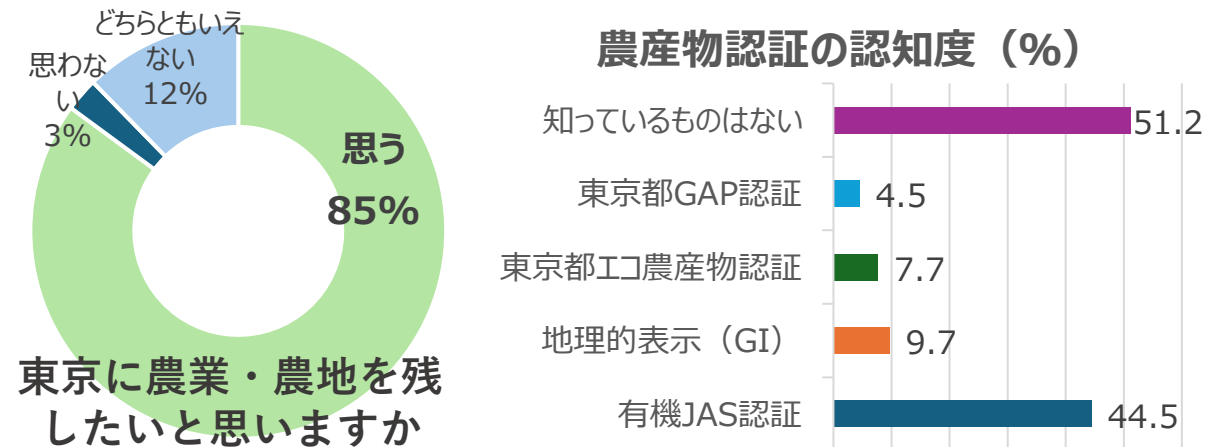
都民の近くで、新鮮な野菜が天候に左右されず安定供給が可能。しかし、人工光型ではレタス類等の葉物が中心で、エネルギーなどのランニングコストが課題。

○東京で植物工場を行う意義は何か

地価の高い東京で、都民に求められる植物工場とは？都市近接を生かせるか？植物工場と既存の都市農業・農業者との結節点をどのように構築していくべきか？

議論テーマ 3 東京農業の価値の最大化

○ 東京農業の価値は十分に評価されているか



出典：「令和7年度第3回インターネット都政モニターアンケート」

○ 都民の85%が「都市農業を守るべき」

多くの都民が「都市農業を守るべき」と考えている一方、積極的な購入や農業体験などの具体的な行動には十分つながっていない。

(東京産農産物を購入したことがある 58%、農業体験をした 18%)

○ 都民による消費行動

エシカル消費への関心層では購入意向が見られる一方、東京都エコ農産物認証の認知度は低く、消費行動や価格評価に十分つながっていない。

(購入時に「消費地に近く環境負荷が低い」を重視する 8.7%)

○ 東京農業はどのような価値を生み出しているか



○ 都市農業には多面的な機能がある

東京農業は食料生産に加え、多面的な機能を有している。

○ 多面的機能をどう可視化・評価するか

東京農業の価値をどのように可視化し、都民や企業の評価につなげ、都市農業の保全につなげていくことができるか。

議論テーマ ②

東京型アグリテックの推進

議論テーマ ③

東京農業の価値の最大化

【東京都の主な取り組み：東京型アグリテックの推進】

○ スタートアップ等を活用した農林水産分野の課題解決事業

東京の農林水産業が抱える課題の解決に向け、**スタートアップ**や**中小企業**の優れた発想力・技術力を活用した取組を支援。**新たな技術開発やビジネスモデルの構築を促進**し、東京の農林水産業のさらなる発展と活性化を図る

○ 東京農業経営強靱化事業

農業者が生産性の高い農業を展開するための**施設整備**や**農業機械の導入**を支援し、東京農業を魅力ある産業に育成

○ 東京型スマート農業の新展開

東京都農林総合研究センターによる**技術開発**と現場での実装を進め、東京型スマート農業の発展と一層の普及を図る

【東京都の主な取り組み：東京農業の価値の最大化】

○ 未来に残す東京の農地プロジェクト

農地の多面的機能の強化や、都民が農業に触れ合う場を拡大する取組を支援して農地・農業への理解を醸成し、農地の保全につなげる

○ 東京都エコ農産物認証制度

化学合成農薬と化学肥料を削減して栽培された農産物であることを**認証**するとともに、**PR**や認証者に対する販売拡大を支援

○ 東京産農産物の流通促進

東京産農産物を農業者等から仕入れて、都内小売店や飲食店等に納品する**地産地消の取組**を支援

○ 食育の推進

東京都食育推進計画に基づき、**区市町村や民間団体が行う食育推進活動を支援**するとともに、各種イベントや学校給食における東京産農産物の活用を促進

○ 各種イベントの開催

「東京味わいフェスタ」や「食育フェア」などのイベントを開催し、都民への東京農業の認知度向上、理解促進を図る